

進路通信 No.2

2022.5.12
久慈工業高等学校
進路指導部発行

〈第一回進路希望調査結果〉

1年生の希望は、就職 13 名、進学 4 名、未定者 5 名

2年生の希望は、就職 16 名、進学 5 名、縁故 1 名、未定者 1 名

3年生の希望は、就職 15 名、進学 4 名 となりました。

今回の進路通信は、それぞれの進路に向けて今からできることをまとめました。3年生だけではなく、1・2年生も自分の進路を見据えて、できることは何かを考えるきっかけにしましょう。

その0. 現在の高校採用率を知ろう。

令和4年3月新規高等学校就職内定状況…前年度比 2.0 ポイント減。(文部科学省 R3 年 12 月当時)

〈全国 91.4% 学科別〈工業〉96.7% 岩手県 94.3%〉

その1. 就職試験に向けて準備しよう。

(1) 志望動機を考える。

会社の採用試験を受ける前に提出する履歴書には、志望動機を書く欄がある。また面接でも必ず志望動機を聞かれる。なぜ自分がこの社会で働きたいと思っているのか、自分の熱意を伝えて会社に役立つ人間だということをアピールしよう。

◎志望動機のみとめ

- ・自分自身がどんな仕事をしたいのか、意思を明確にする。
- ・会社の業種、歴史、理念、社訓、社会・地域交流などを調べ、自分の適性に合っているかを考える。
一社だけでなく、他社と比較し、違いを伝えられることも大事。
- ・自分のどの部分が、その会社にふさわしいか共通点を探す。
- ・自分の長所と短所を客観的に言える。(短所をどのように改善しているかという姿勢も必要)
- ・自分の「やりたい仕事」に対する熱意を文章にしてみる。
- ・その会社でどのように活躍したいかビジョンを考える。
- ・自分の持っている資格や経験、活動実績をもらさず書く。その資格などを会社でどのように発揮できるかを伝える。

(2) 面接で問われることに対応する。

面接は自分を押し通す場所ではなく、企業が求めていることを理解し、その上で自分なりの強みや個性をアピールする場所である。また、あくまでも面接は人と人とのやりとりであるため、面接官がどんな答えを求めているかを感じ取り、柔軟に受け答えする力が求められる。

◎質問の一例 [面接で尋ねられる質問と答え方のポイント]

- ・「あなたの長所・セールスポイントは何ですか。」
- ・「学生生活で一番熱心に取り組んだこと、身に付いたことは何ですか。」※体験談は具体的に。
- ・「最近の出来事で印象に残っていること、関心を持っているのはどんなことですか。その理由も教えてください。」(社会的ニュース、新聞を見て情報収集する)
- ・「なぜ当社に応募したのですか。当社でどんな仕事をしたいですか。」
- ・その他、学生時代に遅刻や欠席が多かったことなど、答えづらい質問もされることがありますが、ごまかさず正直に伝えよう。

その2. 公務員志望の人は模試対策を万全に。すべてをバランス良く。

公務員は「国家公務員」と「地方公務員」とに大別され、公務(仕事内容)が国の組織であれば「国家公務員」で、都道府県や市町村などの地方公共団体(自治体)の組織の中であれば「地方公務員」となる。

地方公務員は地方公共団体の公務を担当し、地方公共団体によって選任され、給与を支給される。職種は都道府県庁や市役所、町村役場などでいわゆる事務系、技術系のほかに警察官や消防官なども含まれ、広範囲にわたっている。試験内容も地域によって異なるのでHPを見て確認する必要がある。問題集での対策、作文の添削指導などを受けるなどこまめな対策が重要である。

◎一般的な試験内容

- ・基礎能力試験…文章理解、課題処理、数的推理、資料解釈、高卒程度の教科に関する知識(40問)
- ・適性試験…計算、照合、置換、分類、図形把握(120問)
- ・作文試験…受験者自身のことや公務員としての資質に関すること、社会的・時事的課題に関する意見等(50分600字)
※参考「社会の一員として働くということ」(H25 国家公務員試験過去問題)
- ・人物試験(個別面接:二次)…地方公務員試験の方が人物を重視される。

その3. 大学、短大、専門学校等進学希望の人は学校の資料請求をしよう。

まずは、自分の進みたい分野・学科を学べる学校を調べることが必要である。「聞いたことがあるから」、「家に近いから」などという理由だけで学校選びをしてはいけない。必ず複数の学校を調べ、その中で、授業料やカリキュラム、卒業後の進路等を踏まえて検討しよう。

- ① 大学入試…総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜などがある。

☆総合型選抜とは

受験者の適性や意欲を調べる入試である。自己アピール能力やコミュニケーション能力を重視しており、あるテーマに沿って発表(プレゼンテーション)させる場合がある。面接試験や学科試験のほか、小論文、実技試験等も課される。エントリーシート記入のために、夏休み前からの準備が必要である。

☆学校推薦型選抜とは

公募推薦と指定校推薦の2種類の仕組みがある。中でも、指定校推薦は、大学が指定する高校のみ出願できるもので、合格率も非常に高いという特徴がある。ただし、どちらの場合も、各大学が示す推薦基準を満たしており、学校長の推薦が必要であるため、日頃の授業に真剣に取り組む、日常生活を規則正しいものにする必要がある。推薦基準は学習成績(評定平均値)、出欠席状況、特別活動の状況などである。

- ② 短期大学、大学校、専門学校、各種学校等も推薦入試、一般入試等が実施される。

◎一般的な試験内容

- 推薦入試…数学Ⅰ、国語、面接、デッサン実技等
- 一般入試…数学Ⅰ・Ⅱ、国語、英語、面接、デッサン実技等

例: 岩手県立産業技術短期大学校(2年制)、岩手県立職業能力開発校、青森県立八戸工科学院(2年制)
秋田職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ秋田)(2年制) 等

その他、専門学校は2年制がほとんどだが、経理や調理師のように1年制の学校もある。また、近年、医療系の専門学校を中心に3年制や4年制になっている学校もある。推薦入試の基準や試験の内容・難易度は学校・学科によって大きく異なる(特に医療系の難易度が高い)。資料請求をし、早めに調べて準備しておく必要がある。

おわりに

進路に関わる情報は、**率先して収集**しましょう。将来どのようなことをしたいのか。何のためにどのようなことを学びたいのか。理想の将来像は、人それぞれ異なります。

進路目標が明確ではない人こそ、**主体的に情報を集め**、自分自身が何に興味があるのか、将来目指す姿はどのようなものかを見極めましょう。

「進路ガイドブック」には、進路を考えるにあたってのヒントや、志望理由書の書き方、面接のポイントなど、その時々に必要な情報が載っています。まずは**ガイドブックを熟読**することから始めましょう。

